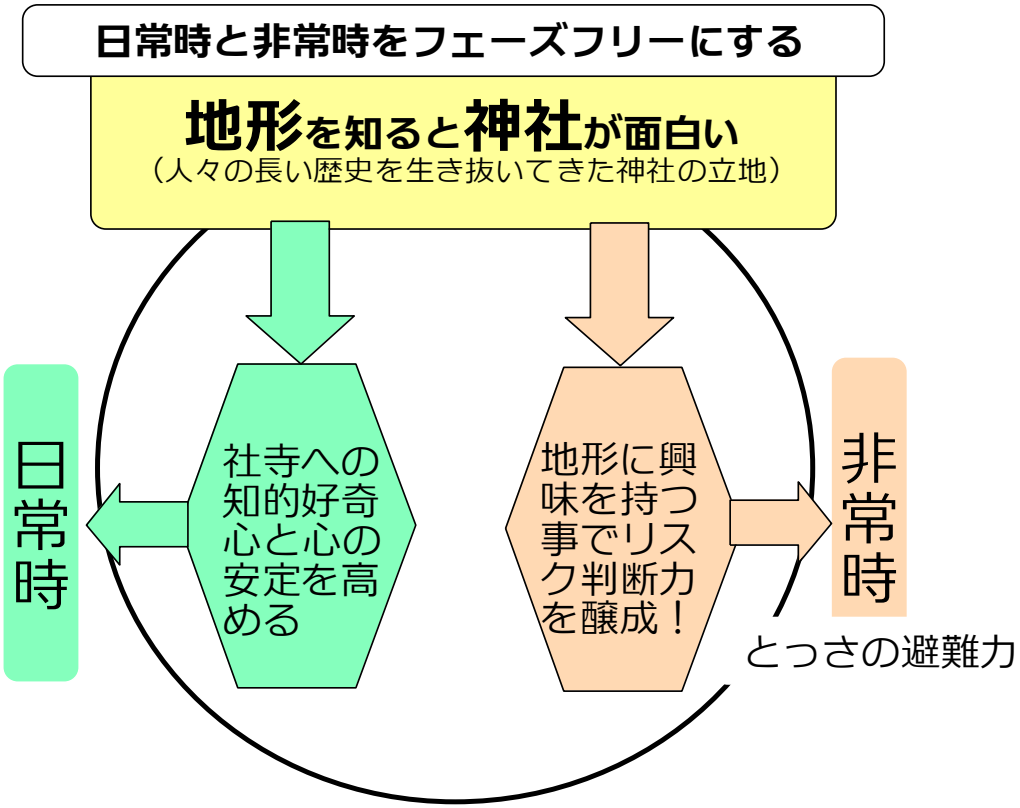
人々の長い歴史を生き抜いてきた社寺

地形を知ると社寺が面白い



参考資料
国交省ハザードマップ

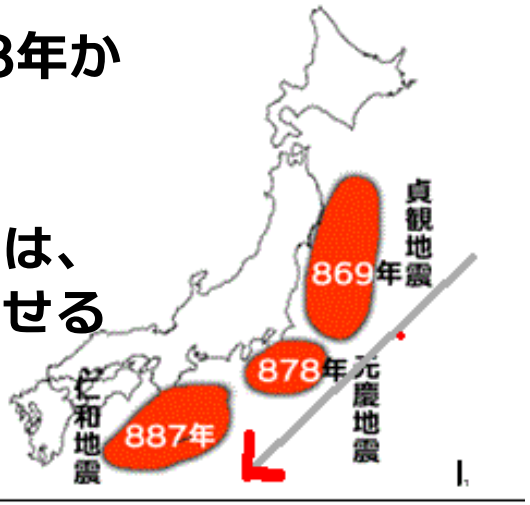
神社等ホームページ
QRコード
大学関係資料
Google map

岩間　文雄
中小企業診断士
090-2637-1164

フェーズフリーとは、日常時と非常時という２つのフェーズ（phase 局面）をフリー（free）にするという考え方でフェーズフリー協会が提唱しています。
（フェーズフリー協会2018年）

平安時代は大災害の多い時代ですが、西暦858年から30年間は特に大きな災害が発生しました。

特に貞観地震-元慶地震-仁和地震の３つの地震は、東日本大震災-関東地震-南海トラフ地震を思わせる流れがあります。



日本の災害歴史の中で、平安時代は最も天地異変の多いい時代で、西暦858～887年の30年間は日本で最大の災害記録として残っている。
　869年貞観11年地震/津波（奥陸）
　878年元慶　2年地震　　（関東）
　887年仁和　3年地震/津波（南海）
東から西に進んでいる。

平安時代に神社/寺院の創建が多いい

山・谷・台地・低地・崖・坂
埋立地・海・川・湖・沼・池
等様々な地形に立地している

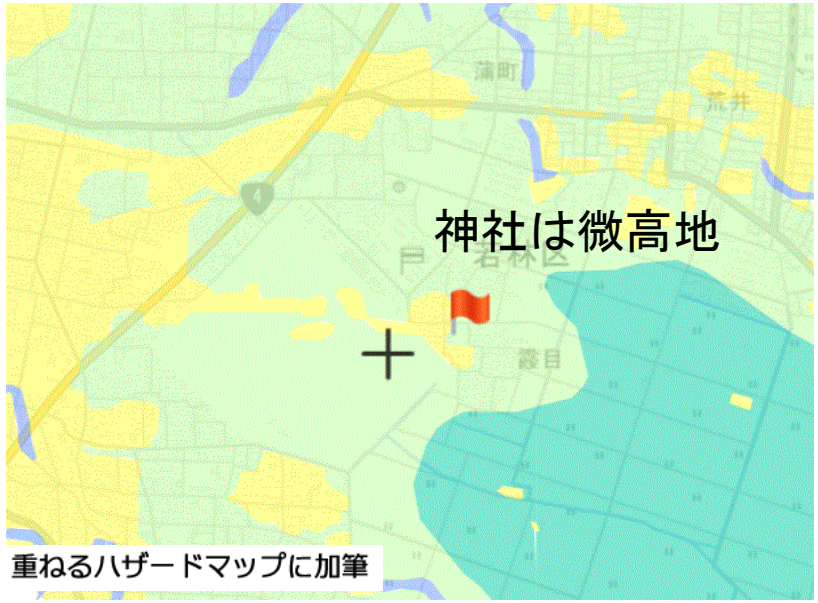
地形を知ると社寺が面白い

防災の視点で神社を見ると新たな発見があるかもしれません。

1．水害を収める伝承事例

仙台市若林区霞目
浪分神社(稲荷大神、豊玉姫神)
海神の娘

浪分神社は1836年までは以前の場所に立地していたが、500m位奥に移動した。
神社には「あるとき大津波が発生したが、やがて白馬に跨った海神が現れ波を二分して鎮めた」という伝説が残されている。



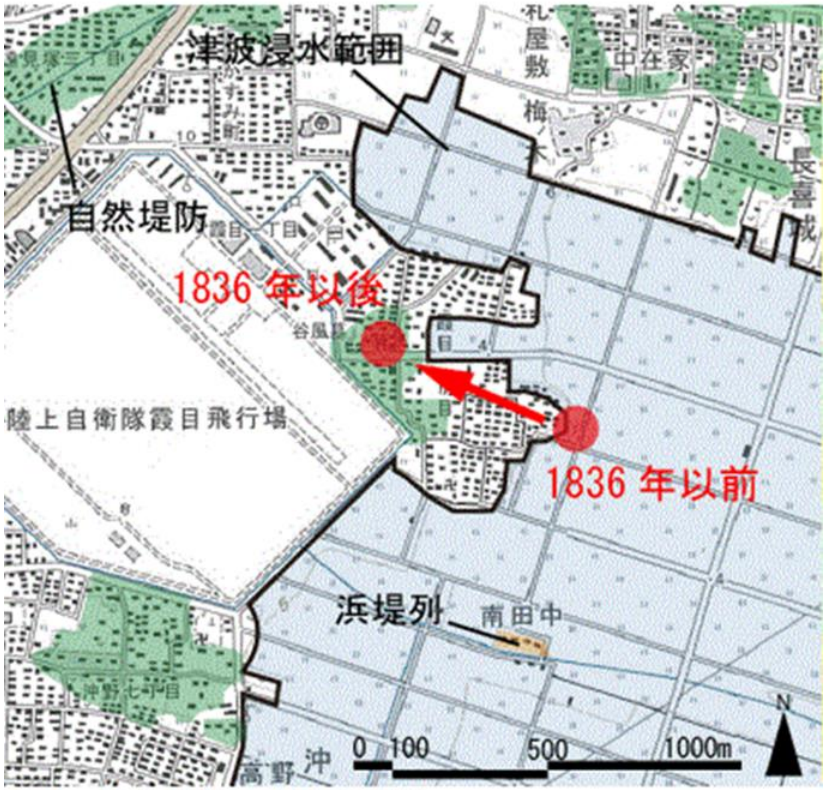


図-4　浪分神社の立地の変遷　仙南平野の神社立地特性より
東京大学大学院　宮坂、中井、尾崎

２．東日本大震災の津波被害における神社の祭神とその空間的配置に関する研究

東京工業大学大学院
社会理工学研究科
高田、梅津、桑子
（ホームページより）

2011年3月11日東日本大震災
日本地理学会作成の津波被災マップ等を用いて現地調査を実施した

〇調査神社　215カ所
・被害を免れた神社　139カ所
・一部浸水した神社　23カ所
・被害を受けた神社　53カ所

現地調査事例
・津波浸水範囲の境界上に多くの神社が位置している。
・津波が川を上流に遡上していった形跡が見て取れ、その遡上範囲を縁取るように神社が点在している。
・言い換えれば、昔の人々は津波や洪水の被害を受けないように、高台の安全な場所に神社を配置していたのだと考えられる。

東日本大震災で宮城県沿岸部において、神社の被災状況を調査した結果として**須佐之男命**を祀る神社、熊野系神社、八幡系神社の多くが津波被害を免れていることを示した。

〇被災しなかった神社と神様
1位　スサノオを祀った神社（16社/17社）
八坂神社　八雲神社　八重垣神社　須賀神社等
２位　熊野系神社・家津御子大神（けつみこおおかみ）（10社/11社）
熊野三山（本宮、新宮、那智の三社）・熊野権現
３位　八幡系神社（18/24）
誉田別尊（ほんだわけのみこと）、応神天皇を祀った神社

３．東日本大震災の学校の立地と神社への避難

震災当日：南三陸町戸倉折立地区の戸倉小の生徒と近くの保育所の子供たちは先生と共に、15分位歩いて高台の五十鈴神社に避難し、津波の被害を免れました津波は鳥居の手前で止まりました。

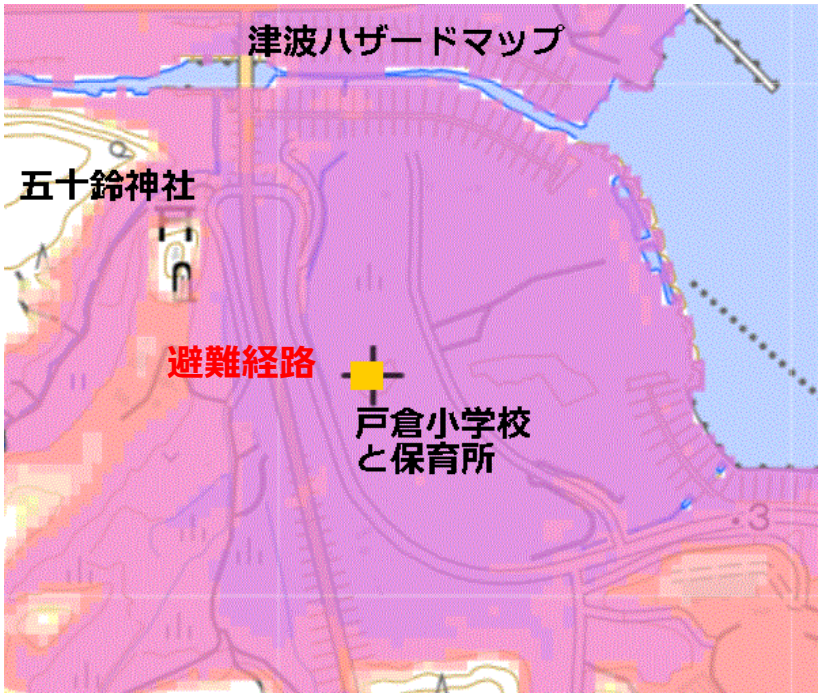
神社に逃げたきっかけ

①校舎(3階建)の屋上が最初の避難場所として想定

②地元出身の職員が校舎でなく、高台に避難すべきと指摘

③避難訓練で神社のある高台に避難を実施していた。

神社立地場所の様子



重ねるハザードマップに加筆

五十鈴神社　参道の様子

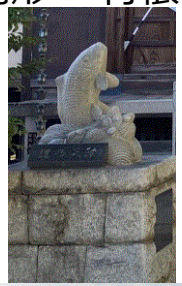
独立行政法人　防災科学技術研究所(文と写真)

4．地域防災の拠点・栗橋八坂神社

久喜市栗橋北2-15-1

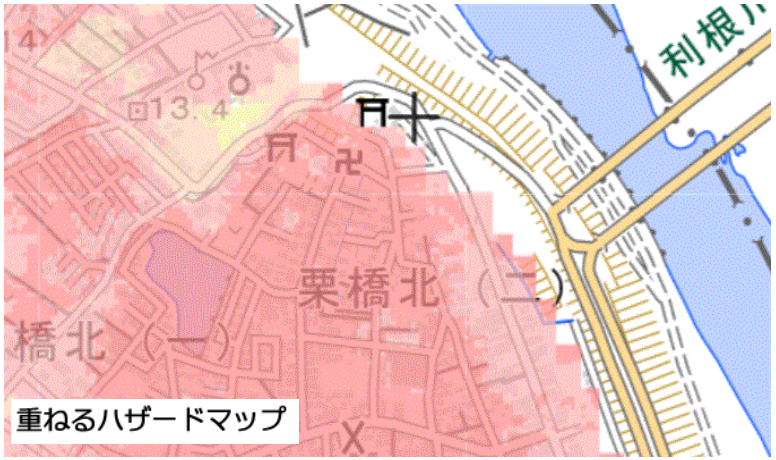
祭神：スサノオノミコト
（水災に強い神様）
地形：利根川堤防上（新設）

慶長年間（1586～1615）、利根川の大洪水の折、当地の村人が総出で堤防の補強工事を行っていたところ、川の波間に鯉と泥亀に囲まれた神輿が流れて来たので、これを引き上げると、元栗橋に祀られている八坂神社の神輿でした。
村人は、この激しい流れに神輿が転覆することもなく、当地まで流れ着いたことから、誠に神慮によるものであると感じ、毎年６月に祭りを行うようになった。（当社案内書から）



久喜市と災害時協定締結（日常+非常時）
八坂神社と隣接する八坂会館を、水害時等の避難場所や地元の水防団・消防団等の活動拠点とする協定が締結されました。

久喜市は、市内を流れる利根川の影響で、ほぼ全域が洪水浸水想定区域となっており、栗橋・鷲宮地区は、特に浸水が深く、治水に対しては地域住民の関心が非常に高い地域です。
社会貢献型のこれからの神社と思います。



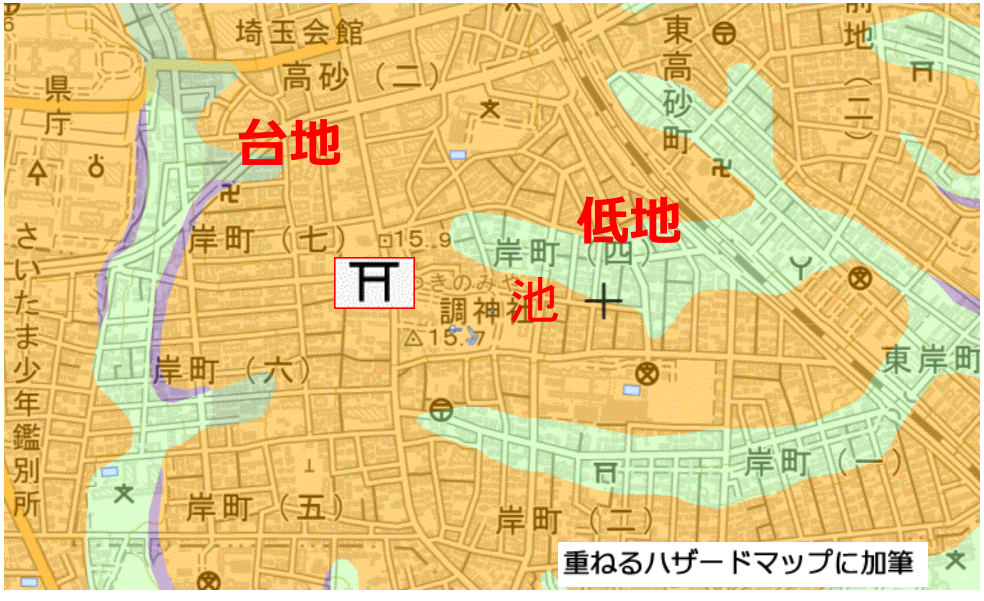
5．調神社（つきじんじゃ）（浦和区）

さいたま市浦和区岸町3丁目17-25

天照大御神（あまてらすおおみかみ）
豊宇気姫命（とようけひめのみこと）
素盞嗚尊（すさのおのみこと）

2,000年前の第10代崇神天皇の勅命により創建

調(つき―月 ―うさぎ)



御手洗池

6．鷲宮神社(久喜)

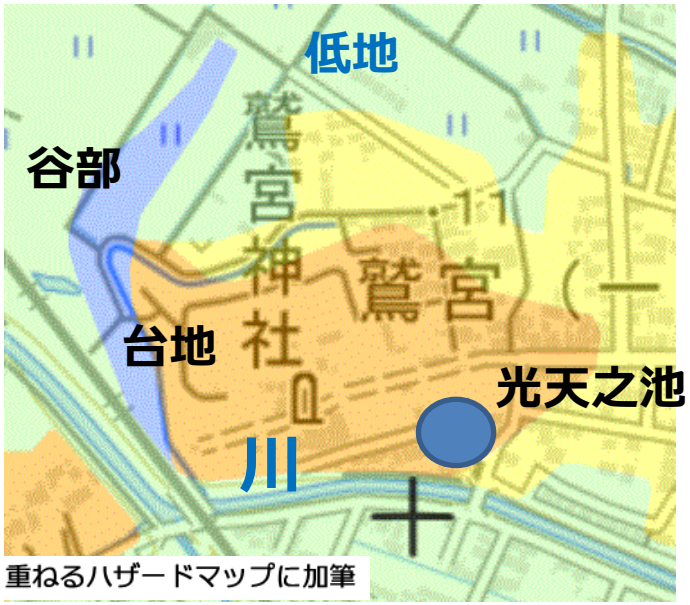
久喜市鷲宮1-6-1

天穂日命（アメノホヒノミコト）
武夷鳥命（タケヒナトリノミコト）出雲出身のヤマト王権
大己貴命（オオナムチノミコト）

当神社は、出雲族の草創に係る関東最古といわれる大社である。

光天之池(みひかりの池)

境内整備事業の一環として、H11年より、古来の御神池ら復元すべく土砂の搬出をしておりますと、池から湧き水が溢れ出て、龍のような雲が空を覆いました。その時に「天まで光輝くような池」というご神託を受け、池の名を光天之池と名付けました。社務所
（境内の看板より）



光天之池

7．出雲伊波比神社　大国主神

（い　わ　い）

埼玉県毛呂山町岩井西5-17-1
古墳時代（300～600年）

埼玉県毛呂山町、臥龍山（がりゅうさん）
標高90mの上にあります。
景行天皇（123年）ヤマトタケルノミコトは東征の折、命を助けた龍が姿を変えてこの御山になったとのこと。御鎮座より1900年、伊波比（いわい）という社名から**祝いの宮**として親しまれております。厄除方位除、子育安産、病気平癒など。

大永7年（1527年）の焼失後、（1528年）には毛呂顕繁が再建しました。
　現在の本殿はこの再建時のもので一間社流造、県内最古の神社建築であり、棟札二面と併せて国の重要文化財に指定されています。
　　毛呂山町ホームページより

8．三芳野神社

祭神　素盞男尊、奇稲田姫命
創建　807年　　川越市郭町2-25-11

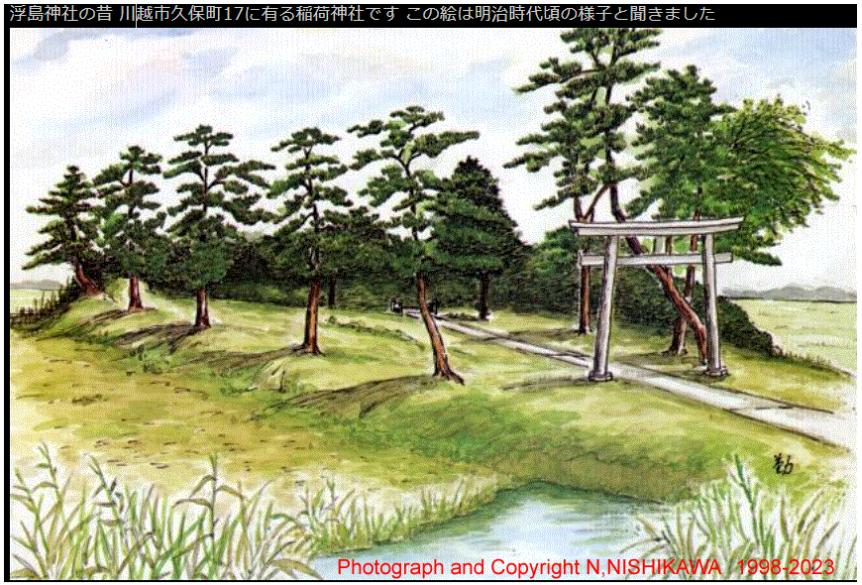
童歌「通りゃんせ」はこの神社の参道が舞台といわれる。
川越城築城以前から当地にあったが、太田道真・太田道灌父子による川越城築城により城内の天神郭（くるわ）に位置することなった。
埼玉県指定文化財。

家康・秀忠・家光の3代将軍は川越への御成（おなり）が多く、川越城の本丸御殿は御成御殿に使用されていたことから、将軍の崇敬も厚く、寛永元年（1624）家光は、幕府老中でもある酒井忠勝に三芳野神社の復興を命じ、翌年遷宮式が行われた。その後、江戸時代を通じて幕府直営社としての格式を誇った。（川越市HP）

9．浮島稲荷神社

川越市久保町17

祭神　素盞男尊、奇稲田姫命
創建　807年　　川越市郭町2-25-11
（平安時代）



七つ釜伝説「昔、川越城が敵に攻め落とされた際、お姫様がこの浮島神社まで逃げてきました。
しかし、夜の暗さで誤って七つ釜に落ちてしまいました。お姫様は這い上がろうと岸辺の葦を掴みましたが、力尽きて沼の底に沈んでしまったそうです。
それ以来、ここに生える葦はどれも片葉になったと言います。」境内には、片葉の葦の石碑が立っています。

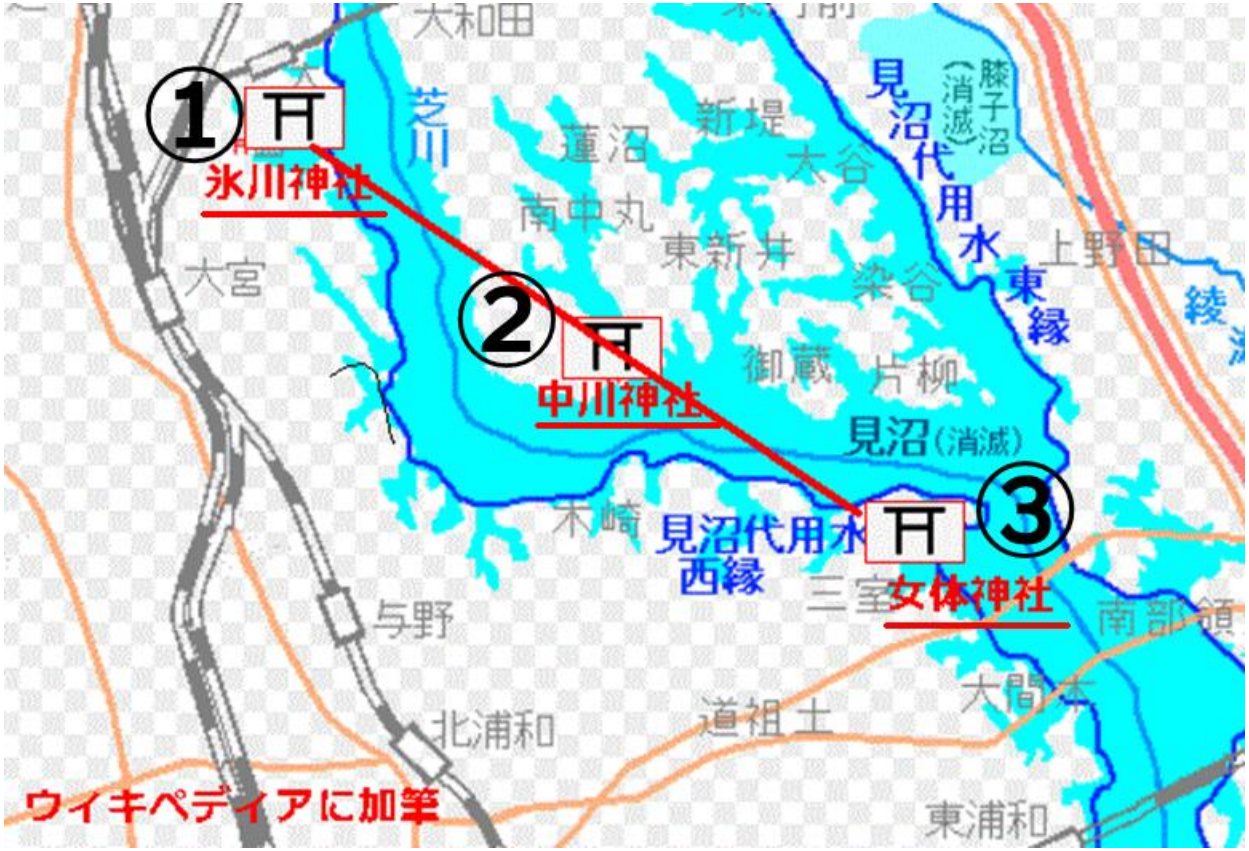
10．武蔵国一宮氷川神社の家族神社

説：大宮氷川神社（須佐之男命・男体社）、中山神社（大己貴命）、氷川女体神社(奇稲田姫命・女体社)の三社を合わせて、武蔵国一宮と称されていたとも伝えられています。実際に三社は一直線場に立地されております。

①大宮氷川神社
（須佐之男命・男体社）

②中山神社
（大己貴命）

③氷川女体神社
（奇稲田姫命・女体社）



①武蔵一宮氷川神社

さいたま市大宮区高鼻町1-407

西暦49年頃(約2000年前)

須佐之男命（すさのおのみこと）
稲田姫命（いなだひめのみこと）
大己貴命（おおなむちのみこと）

207社/287社中、埼玉の元荒川沿いに立地している。

大宮台地の舌状台地先端に位置しています。氷川神社は
第 5代孝昭天皇の３年４月未の日の創立、
第12代景行天皇の御代、日本武尊は東夷鎮定の祈願をなされたと伝わっています。
第13代成務天皇の御代、出雲族の兄多毛比命が朝廷の命により武蔵国造となって奉崇、格式を高めた。
第45代聖武天皇の御代、武蔵一宮と定められた。
第60代醍醐天皇の御代、延喜式神名帳には名神大社として、
武家時代になっても、鎌倉・足利・北条・徳川氏等相次いで当社を尊仰し、社殿の再建や造営を行っております。　（ホームページより抜粋）　出雲市斐川の地名とさいたま市氷川神社の類似性も面白い。

②中川神社(見沼)

大己貴命(大国主命)、素盞嗚命、稲田姫命
さいたま市見沼区中川143

当社は、「武蔵一宮氷川神社」と「氷川女体神社」を結ぶ線上のほぼ中間に位置することから、古くより関係の深い社として「中氷川神社」とも呼ばれていた中川の鎮守です。

社伝によると、創建は人皇十代崇神天皇の御代二年と伝えられています。天正十九年(1591)十一月に、徳川家康から社領十五石の御朱印を賜った格式のある神社です。

(埼玉県の神社より)

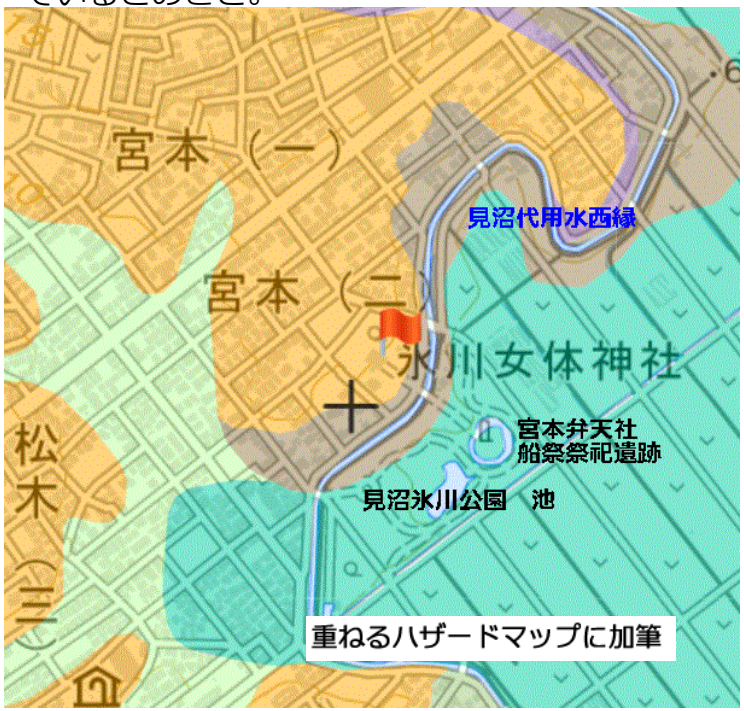
③氷川女体神社（緑区）

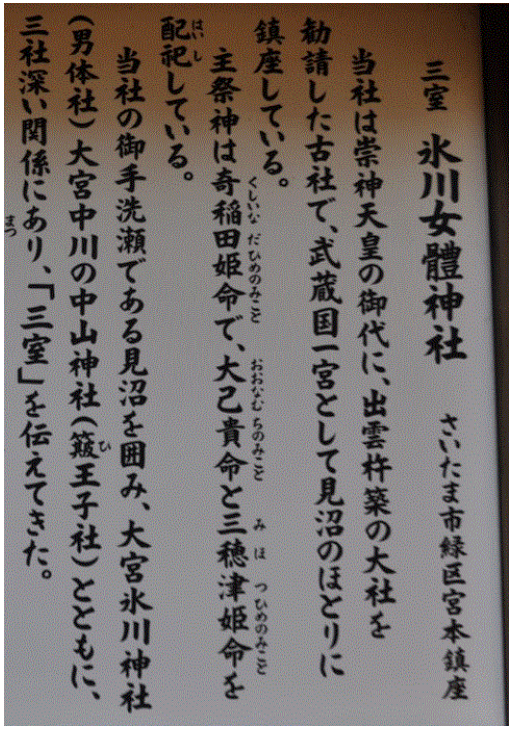
主祭神　奇稲田姫命（クシナダヒメ）
さいたま市緑区宮本2丁目17-1

当社は旧見沼（神沼）の台地の先に鎮座、古代から存在した沼で、この沼は御手洗として当社と一体であり、ここに坐す神は女體神であった。
創建の由緒は「出雲国大社同躰」とあり、**氷川神社、中山神社**の三社を合わせ氷川神社として奉斎した。
埼玉では珍い暖地性常緑広葉樹叢であることから、昭和56年に埼玉県より「ふるさとの森」の第1号として指定された。（境内の掲示より）

見沼には龍神様が棲んでいましたが今は空に棲んでいるとのこと。

拝殿のむかって右側にあるのが「竜神社」です。こちらの神社には、見沼の竜伝説にちなんだ竜神さまがご鎮座しているのだそう！
見沼はかつて“御沼”とされ、竜神さまが棲んでいたという伝説があります。
この地では14世紀頃から、沼の主である竜神さまをお祀りする祭祀「御船祭（みふねまつり）」が行われてきたと推定されていますが、祭りを執り行っていたのが氷川女体神社なのです。　ホームページより





三室　氷川女體神社　さいたま市緑区宮本鎮座

当社は崇神天皇の御代に、出雲杵築の大社を勧請した古社で、武蔵国一宮として見沼のほとりに鎮座している。
主祭神は奇稲田姫命（くしいなだひめのみこと）で、大己貴命（おおなむちのみこと）と三穂津姫命（みほつひめのみこと）を配祀（はいし）している。
当社の御手洗瀬である見沼を囲み、大宮氷川神社（男体社）大宮中川の中山神社（簸（ひ）王子社）とともに、三社深い関係にあり、「三室（まろ）」を伝えてきた。

１１．瀧宮神社

天照大御神　豊受大御神　彦火火出見尊(山幸彦)

深谷市西島5-6-1

瀧宮神社は、深谷市の南を流れる荒川、櫛引台地と低地の境目に位置し、秩父山地に降る雨は荒川の流れとなり、湧き水となってこの地に現れ、　昔の人々が

生活を営む場所となった。いつしか「瀧の宮」と称して神社を祀りました。　神社ホームページより

12．元荒川に沿ってある久伊豆神社

<江戸時代以前の荒川>沿って

江戸時代以前の荒川は、熊谷、鴻巣、春日部あたりを通り、元荒川を経て、越谷あたりで利根川（古利根川）と合流していました。 最下流域では、当時の入間川と合流し、江戸に流れ込んでいました。 その最下流域部分が現在の隅田川です。

したがって、現在の隅田川は、荒川および入間川の下流にあたることになります。

当時の関東平野は、熊谷あたりを最深部とするを形成しており、熊谷から江戸湾に流れ込む荒川の下流域では、 絶えず流路を変え、氾濫を繰り返していたようです。 そのために、当時から荒川の開発に注目が集まっていました。

武蔵七党（むさししちとう）は、平安時代後期から鎌倉時代・室町時代にかけて、武蔵国を中心として下野、上野、相模といった近隣諸国にまで勢力を伸ばしていた同族的武士団の総称である。（以上、ウィキペディア）

埼玉県の久伊豆神社

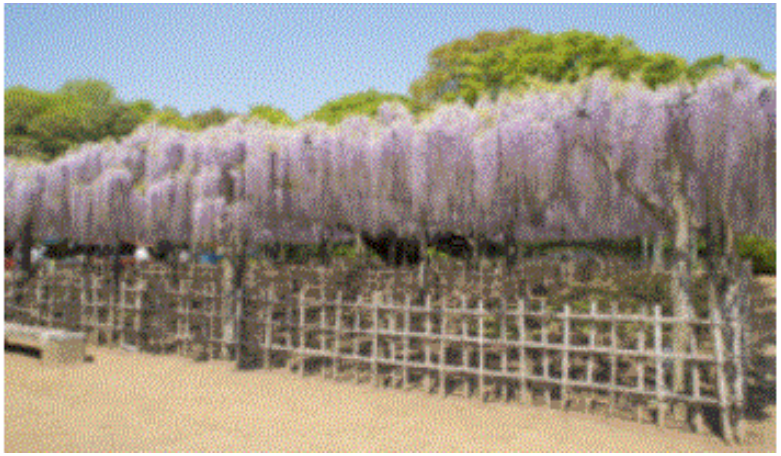
- さいたま市　９社
- 鴻巣市４社　・熊谷市２社
- 行田市６社　・蓮田市７社
- 加須市７社　・越谷市８社
- 久喜市８社　・白岡市４社
- 草加市１社　・八潮市２社

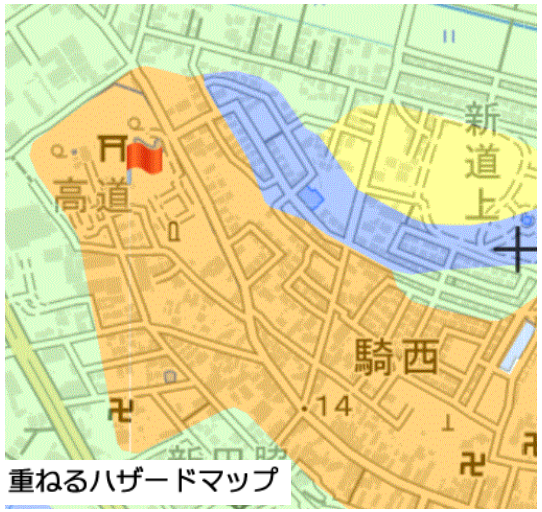
①久伊豆神社の総本山・玉敷神社

加須市騎西552　　大己貴命(大国主命)創建703年

玉敷神社は埼玉県加須市騎西にある神社。**元荒川流域に分布する久伊豆神社の総本社的存在の神社である。**

703年、東山道鎮撫使・多次比真人三宅磨によって創建された。江戸時代までは「久伊豆大明神」とも称されており、埼玉郡の総鎮守として尊崇されていた。(ウィキペディア)





重ねるハザードマップ

神苑：樹齢400年以上を誇る藤の巨木がある。直径1mを超える幹から伸びた枝の広がりは約700㎡に及び、毎年4月末ごろから5月上旬にかけて長さ1mを超える見事な花房を見せてくれる。

② 久伊豆神社

さいたま市
岩槻区宮町2-6-55

祭神：大国主命

久伊豆神社は欽明天皇（539～571）の時代、出雲族の土師氏が東国へ移住するにあたりこの地に出雲族の親神たるを勧請したのが始まりとされています。

平安時代、武蔵野に勢力を誇った武士集団「武蔵七党」のうち野与党と私市党の崇敬を集め、その勢力下にあった元荒川流域に久伊豆信仰が広まりました

黒奴・御輿の歴史：

『岩槻に過ぎたるものが二つある「児玉南柯（こだまなんか）」と「時の鐘」』と言われている。
南柯は岩槻城主大岡家に仕えた教学者です。その南柯の書いた「南柯日記」の中に「久伊豆神事」と記されておりその様子が事細かに書いてあります。

重ねるハザードマップ・国交省より

ひさいずさんの孔雀

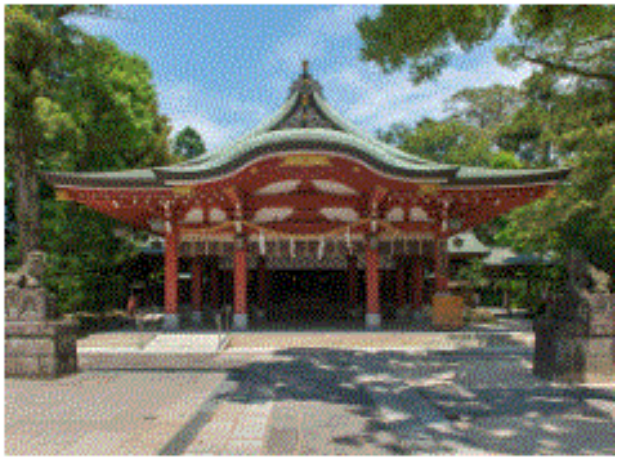
久伊豆神社のシンボルである孔雀は旧皇族の朝香宮鳩彦殿下より御下賜戴いた末裔です。宮様から戴いた3羽の孔雀は歴代宮司や地元の方により大切に育てられ、現在では20羽近くまで殖えました。

以上、ホームページより

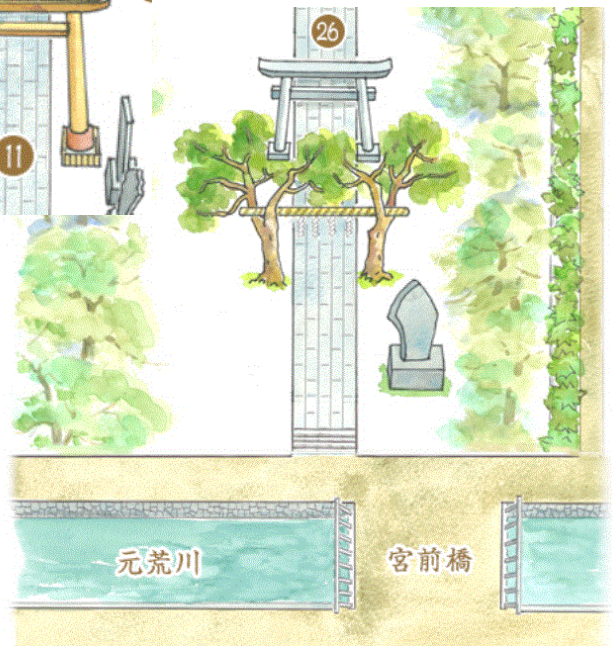
③久伊豆神社

越谷市越ケ谷1700　祭神：大国主命(大黒様)
言代主命(恵比寿様)

久伊豆神社は、埼玉県越谷市越ケ谷にある神社である。
越谷の総鎮守とされている。
旧社格は郷社。宮内庁埼玉鴨場と共に市の「環境保全地域」に指定されている。当社のほか、越谷市内に7社の「久伊豆神社」が鎮座している。　ウィキペディアより



写真・図はホームページより

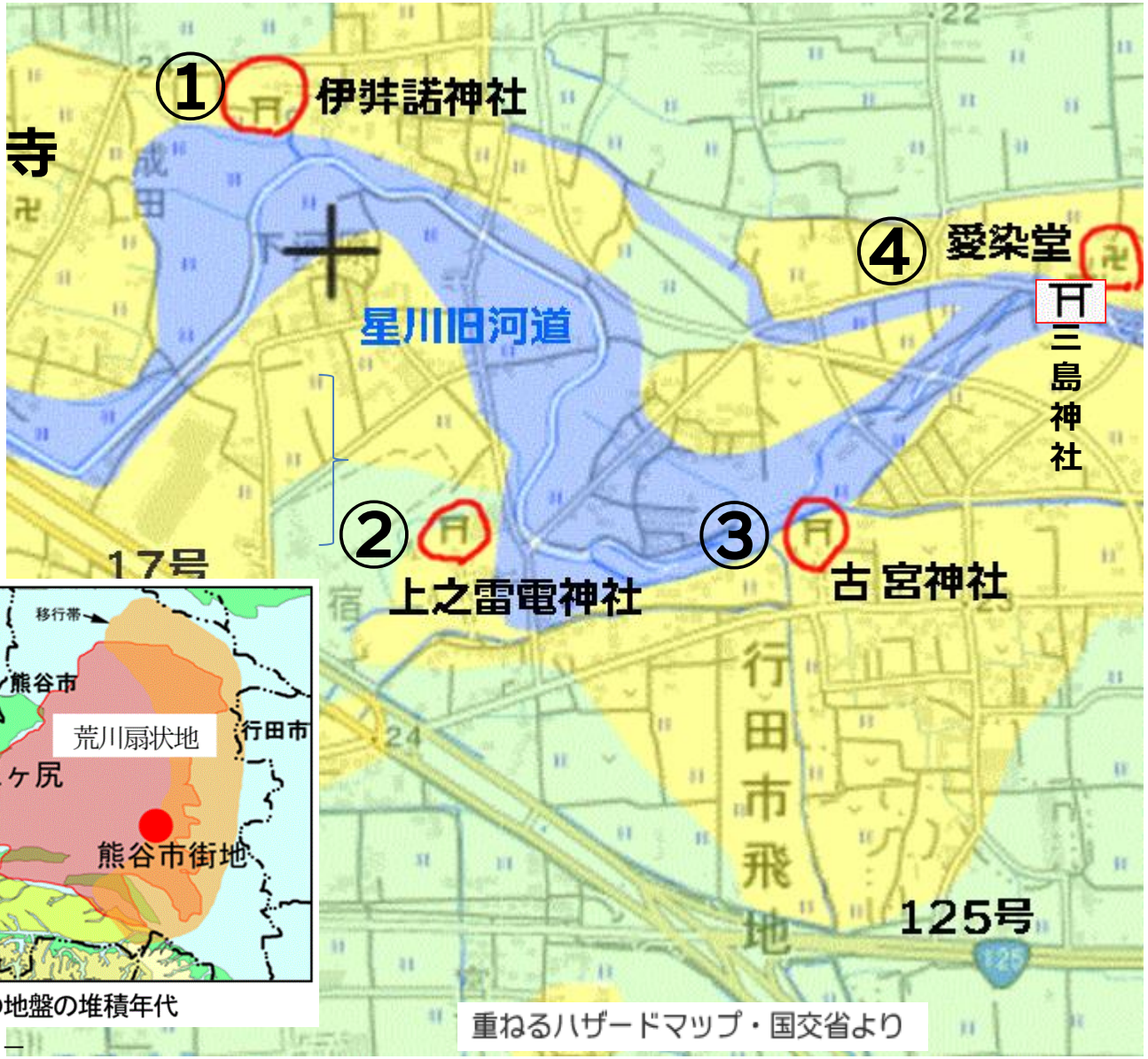


重ねるハザードマップに加筆

13．熊谷星川旧河道沿いの４神社と１寺

熊谷扇状地の星川旧河道の４つの神社と１寺

荒川扇状地では古くから人々の暮らしの痕跡が残っており，最も古いもので旧石器時代から縄文・弥生・奈良平安時代までの集落の遺跡が発見されている。



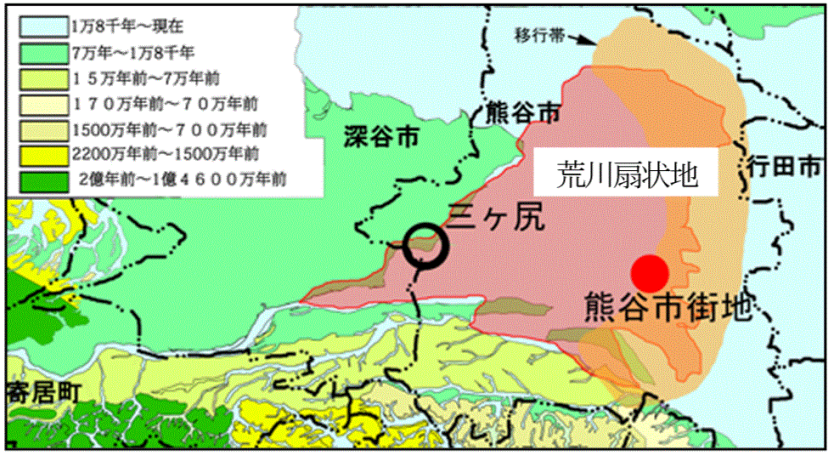


図-1　荒川扇状地周辺の地盤の堆積年代

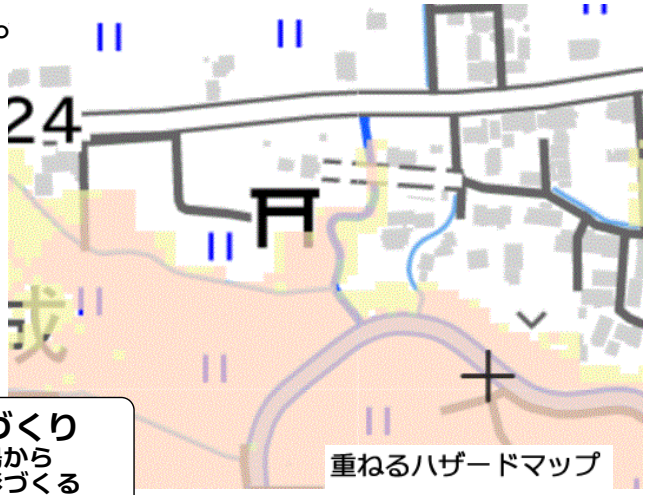
土木学会論文　齊藤 滋、福岡 捷二
(中央大学理工学部 土木工学科)より

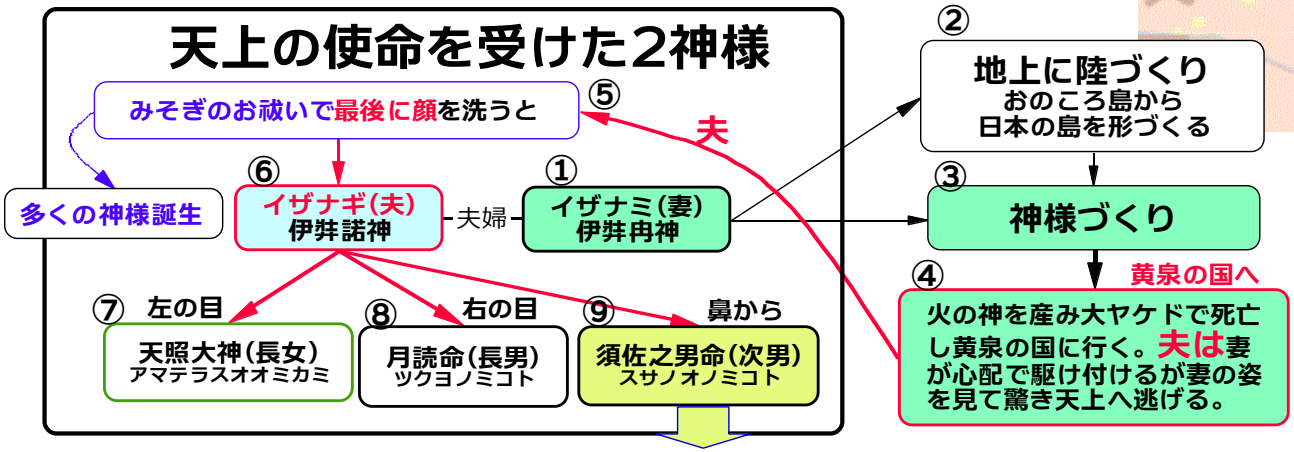
①伊弉諾神社

イザナギ　熊谷市上川上36

創建1185～1573年(鎌倉から室町時代)
祭神：伊弉諾命　伊弉冉命　猿田彦命
大日霊貴命

当社の創建は、中世、紀伊国熊野三所権現を勧請したことによると伝えられ、この伝承に基づくものと言われており、当社（伊弉諾神社）と隣村の下川上の熊野社、大塚の熊野社の三社が総称して「熊野三所権現」と呼ばれている。
（猫の足あとより）





伊弉諾命と伊弉冉命が、天沼矛（あめのぬぼこ）で下界をかき回し、日本で最初に生まれたのが淡路島・・・・・・・・・・・・・・・>

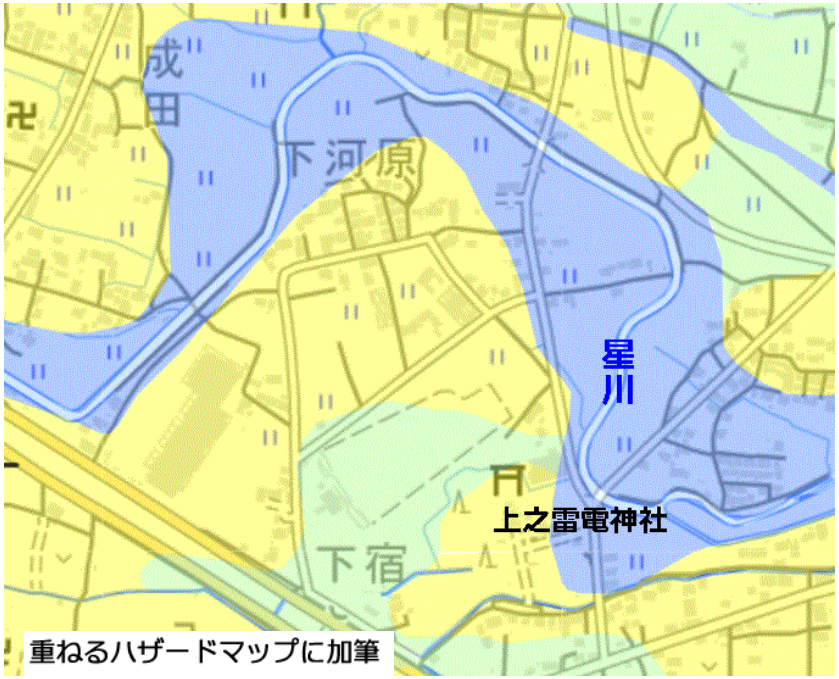
ウィキペディア

②上之雷電神社

大雷神社主祭神　：大雷神
上之村神社主祭神：事代主命、大山祇神、
　　大己貴命

（上之村神社）熊谷市上之１６　創建　平安時代

創建は平安時代以前、再興は応永（1394-1428）、忍城で有名な成田氏の庇護の下、熊谷でも随一の広大な境内地を誇る有力な神社となりました。
社名は、明治2年に現在の上之村神社に改められるまで、「久伊豆神社」あるいは「久伊豆明神社」と号していました。
熊谷市鬼門の守護として鎮座し、その境内の広さは市内でも随一のものです。　　ホームページより



③古宮神社
こみや

三祭神(石凝姥命、少彦名命、武甕槌命)

熊谷市池上606

当地は荒川の扇状地先端に位置し、熊谷にて大きく南に流路を変える荒川の伏流水の湧き出る地域で、地名の池上はその涌水地に由来する。

そうした水源の周辺に早くから集落が形成され、水田が開かれた。(神社の案内板)

④宝乗院 愛染堂熊谷市下川上33-1

（ほうじょういん あいぜんどう）

1726年建立、江戸時代から関東一円の染物業者が多く参拝した。高さ１.15mの愛染明王座像は全身赤色で三面六臂（さんめんろっぴ）の姿。

愛染堂は、平成27年度から28年度にかけて保存修理工事が実施され、平成28年9月に本尊の愛染明王を還御し、落成式が行われました。愛染堂は江戸時代中期の建造物で、本尊の愛染明王は、平安時代末期に星川を流れて当地にたどり着いた逸話が残されていますが、仏像の形状などから、江戸時代初期の制作であると推定されています。（熊谷市ホームページより）

三島神社
祭神は
大山祇命

14.縄文ロマンの遺跡・神社・古墳(桶川/菖蒲)

大宮台地の桶川の北端で元荒川と赤堀川が流れており、農業には適していた地域で、縄文・古墳文化の発達した地域であったと思います。

散策ルート

①氷川天満神社(桶川市)

創建:貞観11年(869)、貞観地震の時、縁起は室町時代にコウノトリが尊像を背負って飛来

②後谷遺跡公園(桶川市)

国指定、重要文化財
ミミズク土偶など多数発掘

③多氣比賣神社(桶川市)

桶川市内最古(紀元前500年)

④天王山塚・古墳(菖蒲)

栢間古墳群で最大(全長100m)

⑤神明神社(菖蒲)

景行天皇時代、西暦70～130年
伊勢神宮の分霊、参道500m

赤堀（桶川）/上栢間（菖蒲）の　縄文・古墳ロマン

縄文時代
紀元前1万4千年～2,500年
縄文土器
土遇

紀元前3500年頃：三内丸山遺跡

紀元前500年頃：水田稲作広まる
　青銅器や鉄器が大陸から伝わる
紀元前400年頃：村から集落へ

弥生時代
紀元前400年～300年
弥生土器

前方後円墳が作られる

古墳時代
300年～600年

埴輪

②後谷遺跡（桶川）：縄文時代の終わり。今から約3000年前

③多氣比賣神社（桶川）：
　紀元前500年前に創建

⑤神明神社（菖蒲）：
　紀元71～130年に創建

④天王山塚等の古墳が多く見られる上栢間地域（土器も）

飛鳥時代
592年～710年

奈良時代
710年～1185年

縄文時代の遺跡「後谷遺跡」から発掘された出土品のうち645点が平成23年6月に国の重要文化財に指定されました。平成30年には、出土品の一部が東京国立博物館の特別展で展示されたほか、フランスにあるパリ日本文化会館でも展示されました。　桶川市教育委員会

後谷遺跡の出土品の展示は、桶川市歴史民俗資料館（川田谷）ですが、令和６年４月まで休館しております。

①氷川天満神社

桶川市加納771

創建　869年(貞観地震の年)
祭神　素戔嗚尊、菅原道真公

神社の縁起は、「1450年(室町時代)正月24日の夜に社の森に光が差し、コウノトリが尊像を背負って飛来し、社に安置して飛び去った」言われています。1712年に菅原道真を祭神として上加納の鎮守として伝えられています。

境内には、諸病に効くと言われたご神水井戸(右写真)があり、この水を用いた薬湯は有名であった。
この神社には、「天満宮」と記された木製の社号額がありますが、梵語学者として有名な真言宗の僧・盛典が1688年(江戸時代)に奉納したもので、桶川市指定文化財に指定されています。

②後谷遺跡　桶川市赤堀2-5　縄文時代後期から晩期（3,500～2,500年前）

資料の展示は桶川市歴史民俗資料館
桶川市川田谷4405－4

ミミズク土偶

〇低湿地の遺跡：現在の地表の地下3～5m地下から、縄文時代の生活の跡が当時のまま見つかったとのこと。
〇特徴：竪穴式住居、縄文人の生活と生業の空間が一体として発掘された。
〇出土：大量の土器や石器、土偶、装身具類
地下水による天然の真空パックによって腐敗から守られ木の道具や食糧としていた木の実、動物の骨等が大量に発見された。
〇国の重要文化財指定として、桶川市歴史民俗資料館に展示。

遺跡に掲示されている看板より
（桶川市教育委員会）

③多氣比賣神社　桶川市篠津58

祭神　豊葦武姫命（とよあしたけひめ）
安産、子宝の神様
桶川市内最古の神社（紀元前500年）

豊葦武姫命は、第10代崇神天皇の皇女で、天照大神の宮外奉斎の伝承で知られる巫女的な女性です。

花手水を始めました　はなちょうず

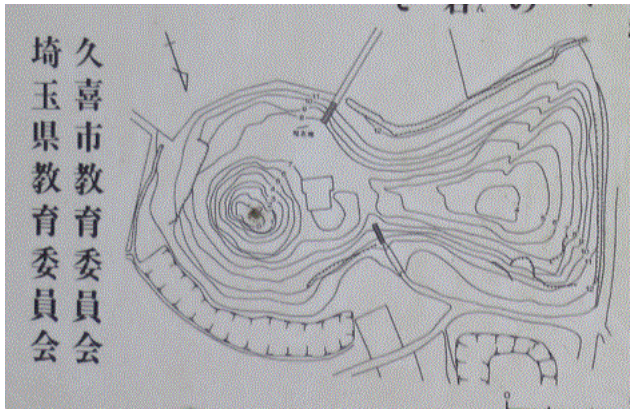
重ねるハザードマップ・国交省より

多氣比賣神社の創建年代等は不詳ながら、第３代安寧天皇の代の創建とも伝えられ、延長5年（927）に編纂された延喜式神名帳に記載される「多氣比賣神社」に比定される社です。江戸期には姫宮社と称し、篠津村の鎮守として祀られ、明治初年社号を多氣比賣神社と改称、明治6年村社に列格、明治40年五丁台字上耕地の稲荷社を合祀しています。（猫の足あとより）

④天王山塚(前方後円墳)

栢間古墳群の１つ

埼玉県指定史跡　久喜市菖蒲町上栢間3284-1



全長　100m超　、　主軸　東西
高さ　後円部10m、　前方部9m
幅　後円部55m、　前方部62m

栢間古墳群は９基からなり、県の重要遺跡に選定されている。その他に打出塚古墳、富士塚古墳、禿塚古墳、芝原古墳、本村古墳など９基からなる。

石室に使われた安山岩から古墳時代後期（６世紀後半）。

前方部にある薬師堂

後円墳への上り

堀の一部

説明看板より（久喜市教育委員会）

⑤神明神社

創建　景行天皇時代（西暦70～130年）　祭神　天照皇大神（内宮）
久喜市菖蒲町上栢間3366　　豊宇気毘売神（下宮）
（豊受大神）

伊勢神宮の分霊

神社の特徴：500mを超す参道林と境内林からなる。
自生する樹木には、ムクノキ、ヒサカキ、シラカシ、ミズキ、エゴノキ、シロダモ、ヌルデ、アカメガシワ、アカシデ、イヌシデ、ガマズミ、コナラ、ケヤキ、スダジイ、アカマツ等が見られる。
潜在的にはヒサカキ、サカキを主体とするシラカシ群を自然植生とみることができる。埼玉県東部低地には潜在自然植生をよく示す広域的な林は少なく貴重である。（埼玉県教育委員会、久喜市教育委員会の説明看板より）

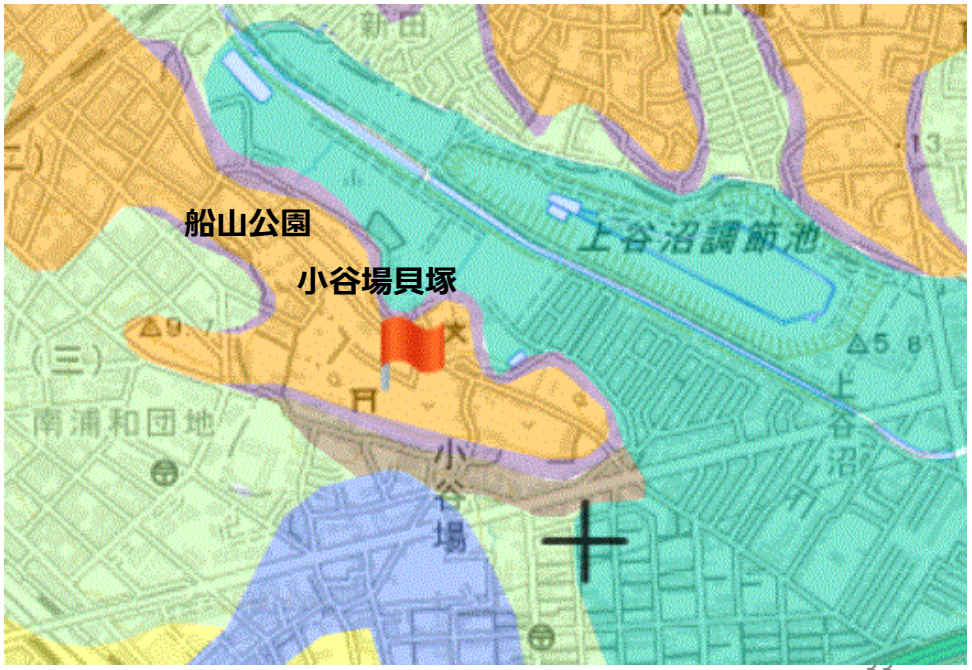
15. 小谷場稲荷神社

川口市小谷場957（小谷場字台）

祭神：保食命（うけもちのかみ）

保食**神**は、日本神話に登場する神である。『古事記』には登場せず、『日本書紀』の神産みで登場、女神と考えられる。　ウィキペディアより

当社は、大宮台地南端に位置する「岡の台」と呼ばれる小高い丘の上に鎮座している。
小谷場の鎮守として祀られてきたこの岡の南側の低地には、かつては広々とした水田が広がっており、当社はそれを望む位置にあることから、恐らくは小谷場の村が、水田耕作を中心とした村落として安定し始めた江戸時代初期に、耕地の安泰を願って勧請されたものと思われる。　埼玉県神社庁「埼玉の神社」より）



重ねるハザードマップに加筆

16. 仲蔵院/八坂香取稲荷神社

春日部市八丁目36

神林山 仲蔵院は、永禄元年信長公の時代に正観音菩薩をご本尊として春日部の地に開創された真言宗のお寺です。
粕壁宿の風情を残す閑静な住宅街の奥にある境内には、隣接する小鳩保育園からの元気な子どもたちの声が時折聞こえてきます。
（写真・説明はホームページより）

八坂香取稲荷合社

の創建年代等は不詳ながら、香取社と称し、永禄元年（1558）に仲蔵院住職秀宥が再建、当地が下総国から武蔵国へ編入された頃に八幡大菩薩を相殿に祀ったといいます。
明治36年に境内社だった稲荷神社と八坂神社（牛頭天王）を合わせた合殿とし、明治45年には字樋籠の香取社を合祀しています。
（写真・説明はホームページより）

Google Earh

お寺と神社が隣り合わせにあります。

17．田無神社

西東京市田無町3-7－4

大国主命。級津彦命（しなつひこのみこと）・級戸辺命（しなとべのみこと）として金龍、境内各所に黒龍、白龍神、赤龍、青龍を配祀し五龍神として信仰されております。

また、尉殿大権現と称されていた創建当初より級津彦命　（しなつひこのみこと）・級戸辺命（ しなとべのみこと）をお祀りしております。この二柱は龍田大社や伊勢神宮・内宮の別宮である風日祈宮、外宮の別宮である風宮などでお祀りされる風を司る神様です。

尉殿とは
享保期（1716　1736）の館村（現新座市）の古文書によると尉殿権現は水神であり、俗に十殿、ぞうとのと呼ばれると記されています。埼玉県、群馬県を中心に水や井戸、湿地や川の神様としてジュードノ様、ズードノ様、重殿様、増殿様と呼ばれる神様がお祀りされています。

説明文は神社ホームページより

重ねるハザードマップ・国交省より

龍神池

18. 春日部八幡神社

春日部市粕壁5597

誉田別尊（応神天皇）、息長足姫尊（神功皇后）、武内宿禰命、豊受姫命

今から約八百年前、源頼朝が鎌倉に幕府を置いていた頃、柏壁の浜川戸に春日部重実という人がおり、大袋、大沢、桜井、新方、増林あたりを領地としていました。
この重実の子に実景、そしてこの実景の孫に重行という人がいました。
彼は長い間、相州（現在の神奈川県）にある鶴岡八幡宮を敬信していて、しばしばの合戦にもその霊護を蒙ったので、礼拝のため鎌倉時代（1130年代）に鶴岡八幡宮を模してこの八幡神社を造営したと伝えられており、森の一部は彼の館跡と言われています。　ホームページより

内陸性砂丘の上に神社があります

重ねるハザードマップ・国交省より

中川低地の河畔砂丘群　浜川戸砂丘

河畔砂丘とは、砂床河川の中・下流域の流路に沿って形成される内陸性の砂丘である。

埼玉県東部の中川低地には、利根川の旧河道に沿って点々と砂丘列が残されている。

これらは、榛名山や浅間山の噴火による噴出物等を母材とする利根川の土砂が、平安時代～室町時代以降の寒冷期に強い季節風によって吹きためられ、自然堤防に沿って形成されたものである。宗教法人八幡神社、宗教法人稲荷神社、春日部市記念物　（文化遺産オンラインより引用）

春日部八幡神社/春日部稲荷神社の地形 春日部市粕壁5597

中川低地の河畔砂丘郡　浜川戸砂丘　埼玉県指定　天然記念物　平成28年３月１５日

榛名山や浅間山の火山灰等に由来する大量の砂が平安～室町時代の寒冷期の強い季節風により、利根川の旧河道沿いに吹き溜められて形成された**内陸性の砂丘**。長さ200m、幅50mの規模で八幡様と稲荷神社の境内にみることができる。（看板）

春日部稲荷神社（雄略天皇478年頃）。伏見稲荷大社

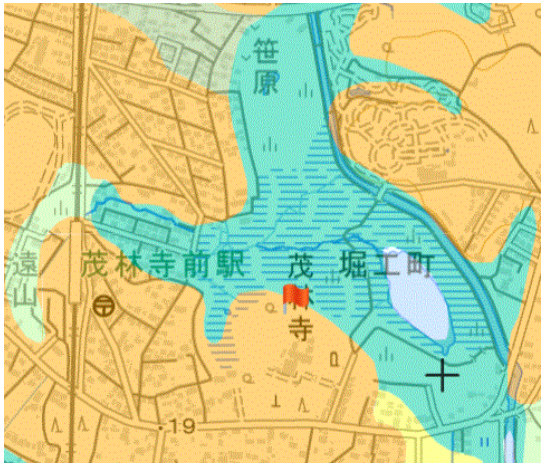
19. 茂林寺

群馬県館林市堀工町1570

1426年、大林正通大和尚によって開山された曹洞宗寺院

福を分けてくれる

お寺は台地にありますが、すぐ裏は低地で茂林寺沼があります。



重ねるハザードマップ・国交省より

福を分け与える「紫金銅分福茶釜」で、湯で喉を潤す者は、開運出世・寿命長久等、八つの功徳に授かると言いました。「ぶんぶく」という名の由来については、“茶釜は8つのごりやくを持っていたが、なかでも「福を分ける力」が一番大きかったので、福を分ける茶釜、つまり「分福茶釜」と呼ばれるようになったのだと言われています。

20. 大前神社（おおさき）

栃木県真岡市東郷937

大前神社は1500年有余の歴史を誇る延喜式内神社
・祭神：大国主命（大黒様）と事代主神（恵比寿様）
・大黒様と恵比寿様の縁起の良い親子が祀られており、
多くの参拝者があります。

二宮尊徳は五行川等の改修を行いましたが、この川の左側に祠があります。

重ねるハザードマップ・国交省より

経歴書　　岩間文雄（中小企業診断士　昭和１５年７月１２日生まれ）

出生地	：	東京都港区芝白金、昭和20年３月10日東京大空襲で本家のある岐阜市へ疎開
育ち	：	岐阜県各務原市（稲葉郡那加町）　戦前も今も航空基地がある町で有名
出身学校	：	県立岐阜工業高等学校色染科卒業　日大理工学部工業化学科卒業
職歴	：	大日精化工業㈱　東京研究所（合繊の原液着色）
		日本化薬㈱　染料部東京研究所（染料による塩ビフイルム新着色法・特許）
創業	：	昭和４８年　８月　保険会社営業社員、後に保険代理店開業（大東京火災）
法人化	：	平成　８年　２月　株式会社ビーアイシー設立　資本金１,０００万円
事業活動	：	昭和５５年～　交通安全講習会（上尾市から鴻巣市の地域企業）
		団体事業所を20社開拓、保険会社年度表彰
		地震防災研修会（消防署、消防団など）
		平成　２年　中小企業診断士資格取得（49歳）
		平成　５～１５年　埼玉県中小企業振興公社にて商業相談員
		バーチャルモール立ち上げ支援（ホームページ）
		平成　５年～７年　菖蒲町奉仕会活性化支援（団体は埼玉県知事賞受賞）
		平成１３年　９月　ＩＴコーディネータ第１回資格試験合格（２番目の高齢合格60歳）
		平成１５年～２５年　県内（桶川、北本、川越、川口等）の商店会活性化支援
		平成２４年～　第１回ものづくり補助金事業計画作成支援
		平成２７年　９月　ビーアイシー代表取締役を退任（75歳）
		平成２７年　９月　岩間健太郎（次男）　株式会社ビーアイシー代表（事業承継）
		岩間　寛（長男）　（有）ボディショップカントウ代表
		岩間保険事務所代表
		令和　３年　地域振興ホームページ「大宮台地を走る伝鎌倉街道」
		令和　５年　神社研究「神社と地形をテーマに神社の社会的価値」
		令和　６年　脳科学の勉強「運気とやる気脳アップ」
		ウエルビーイング創造（精神/身体/社会的に良い状態）

所属団体　（社）埼玉県中小企業診断協会（令和５年　協会在籍30年永年表彰 83歳）

終わり

２１．鴻巣箕田地区の魅力を探る！

清和源氏の祖：源経基（ツネモト）・・・源義経、源頼朝

清和源氏（せいわげんじ）は、日本の武士階級の一族で、平安時代中期から鎌倉時代にかけて活躍しました。

彼らは源氏の一派であり、清和天皇を祖としています。源氏は天皇家の血を引く武士の家系であり、清和源氏はその中でも特に重要な家系の一つです。

清和源氏の中で有名なのは、源義家やその子孫たちで、彼らは後に鎌倉幕府の成立に大きな影響を与えました。

また、清和源氏は平家との戦いでも知られ、特に源平合戦において重要な役割を果たしました。源氏の名の下で、彼らは武士としての地位を確立し、日本の歴史において重要な存在となりました。

源義経や源頼朝などの著名な人物も清和源氏の系譜に連なるため、彼らの歴史は日本の武士道や政治史に深く関わっています。

ChatGPTより

鴻巣市・箕田地区、平安時代

清和源氏・渡辺姓発祥の地

伝源経基館跡
（鴻巣高校の南側にある）

源経基は、１年余りで京に戻り、鎮守府将軍に就任、子孫の頼朝は鎌倉幕府を開き、征夷大将軍となった。

氷川八幡神社、宝持寺、満願寺、龍昌寺

清和天皇の孫
源　経基
ツネモト

経基死亡

988年
八幡宮
源綱が
創建

1097年
龍昌寺
開山

953年

1025年

794年平
安時始まり

894年生誕？

961年
死亡

1185年
平安時代
終わり

清和源氏の祖、武蔵介に就任（馬）。この時、関東一円は「平将門の乱」など、混乱の時代を迎えていました。

嵯峨天皇の皇子の孫の源仕の孫
渡辺綱（ツナ）生誕

綱死亡

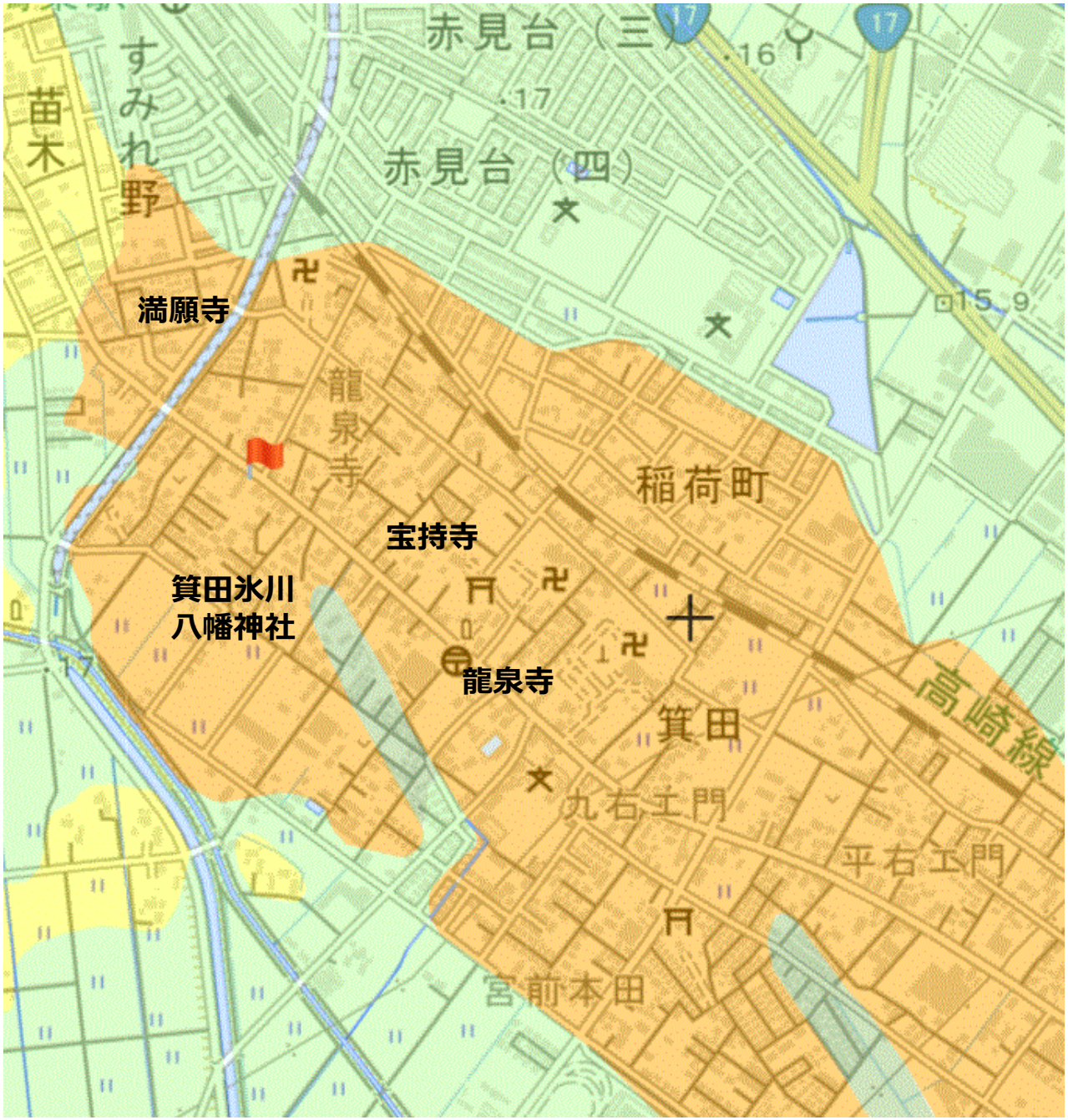
源頼朝の時代
1147～1199年

嵯峨天皇の皇子で源融（トオル）の孫［**源仕**（ツコウ）］が箕田に移り住んだ。箕田源の祖先である。**源仕**の孫が**源綱**である。
綱は953年に箕田で生まれた。その後、摂津国渡辺津に移り、「**渡辺姓**」が誕生した。（渡辺綱）　箕田地区には、「綱八幡」と呼ばれる氷川八幡神社があり、隣地には、綱が創建した言われる宝持寺がある。

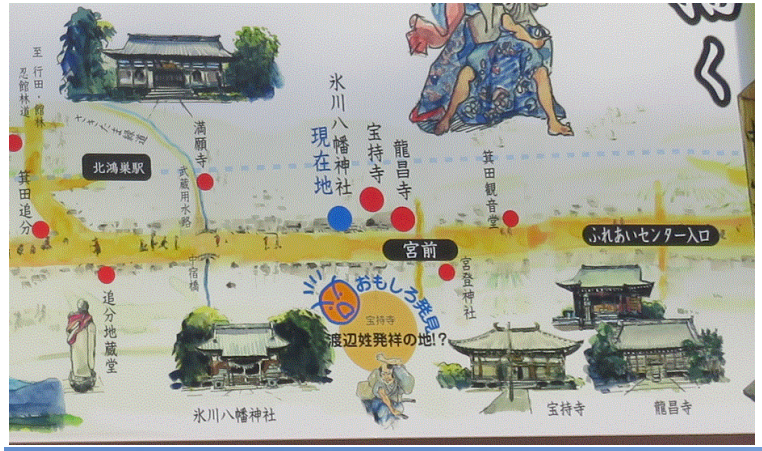
八幡神社内の境内には箕田源氏を顕彰するための「**箕田碑**」がある。

宝持寺境内には全国渡辺会が建立した「**顕彰碑**」がある。

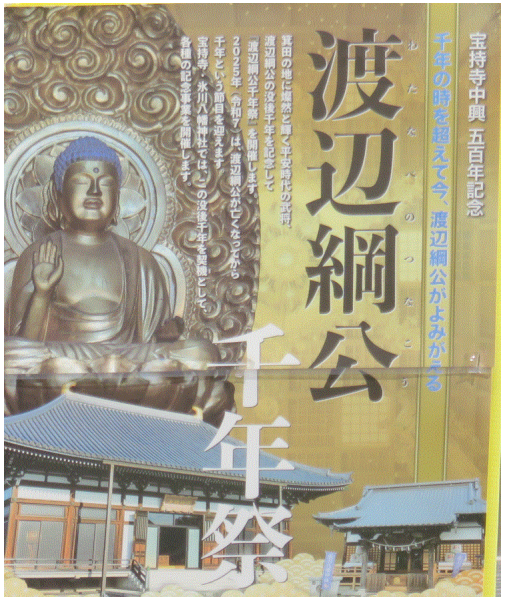
参考資料　鴻巣市　広報こうのす　H27.9
図解　　岩間　文雄


赤見台（三）
赤見台（四）
苗木
すみれ野
満願寺
龍泉寺
宝持寺
稲荷町
箕田氷川
八幡神社
龍泉寺
箕田
高崎線
丸右工門
平右工門
宮前本田

鴻巣・箕田地域　氷川八幡神社



宝持寺


宝持寺中興 五百年記念
千年の時を超えて今、渡辺綱公がよみがえる
渡辺綱公
わたなべのつなこう
千年祭
冥田の地に燦然と輝く平安時代の武将、
渡辺綱公の没後千年を記念して
「渡辺綱公千年祭」を開催します。
2025年（令和7）は、渡辺綱公が亡くなられから、
千年という節目を迎えます。
宝持寺・氷川八幡神社では、この没後千年を契機として、
各種の記念事業を開催します。

満願寺

真言宗豊山派寺院の満願寺は、若林山明王院と号します。創建年代は不詳ですが、清和源氏の初代源経基が創建したとも源頼義が奥州征伐の際に創建したとも、源頼義の家臣若林某が住んでいた地ともいい、鎌倉時代以前からの言い伝えが残る源氏所縁の古刹です。

清和源氏の祖：源経基（ツネモト）・・・源義経、源頼朝

清和源氏（せいわげんじ）は、日本の武士階級の一族で、平安時代中期から鎌倉時代にかけて活躍しました。

彼らは源氏の一派であり、清和天皇を祖としています。源氏は天皇家の血を引く武士の家系であり、清和源氏はその中でも特に重要な家系の一つです。

清和源氏の中で有名なのは、源義家やその子孫たちで、彼らは後に鎌倉幕府の成立に大きな影響を与えました。

また、清和源氏は平家との戦いでも知られ、特に源平合戦において重要な役割を果たしました。源氏の名の下で、彼らは武士としての地位を確立し、日本の歴史において重要な存在となりました。

源義経や源頼朝などの著名な人物も清和源氏の系譜に連なるため、彼らの歴史は日本の武士道や政治史に深く関わっています。

ChatGPTより

経　歴　書　　岩間　文雄(昭和１５年７月１２日)

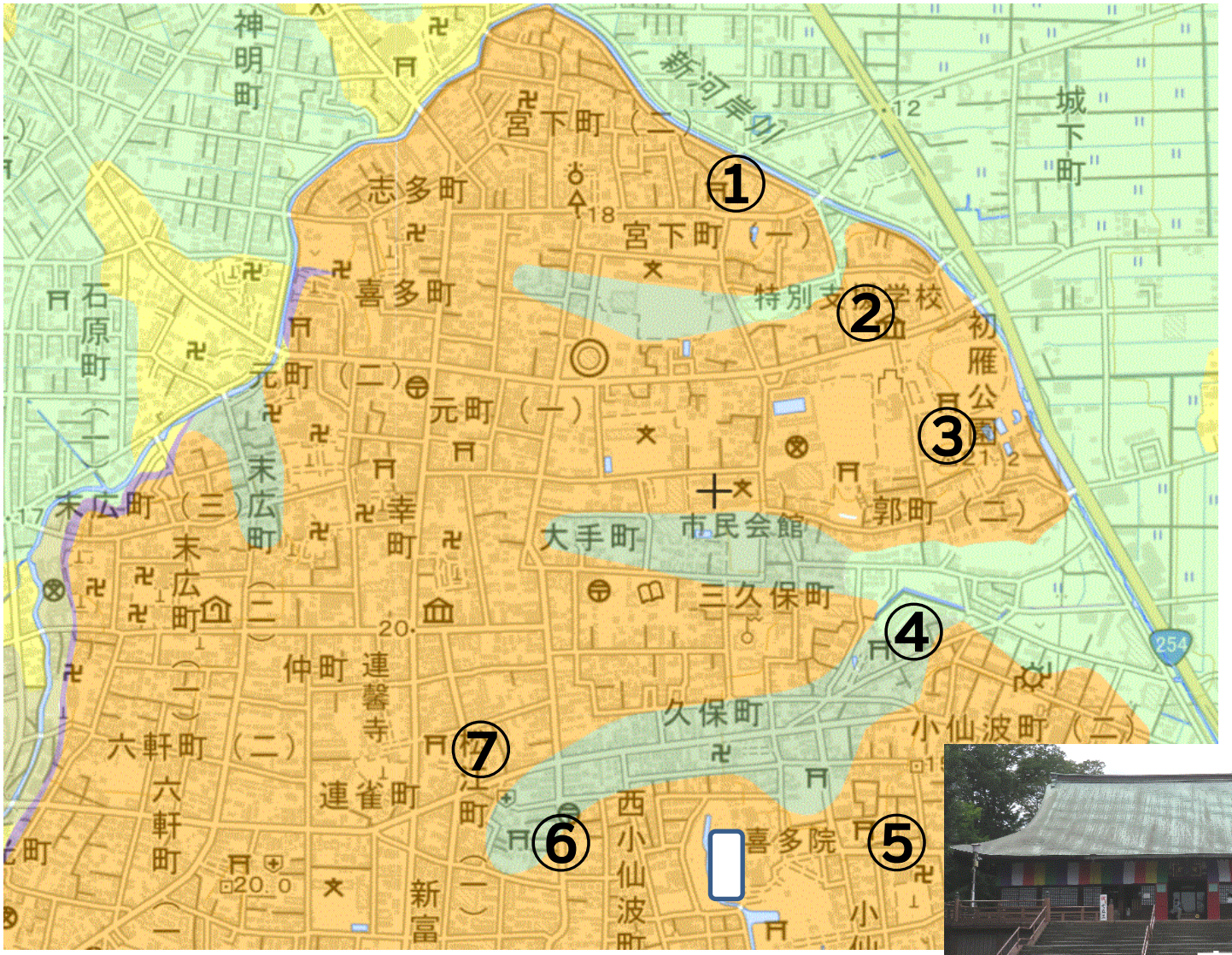
事務所　　埼玉県桶川市上日出谷1269-92　(株)ビーアイシー　会長　中小企業診断士(平成２年取得)
職歴　　大日精化工業㈱ 東京研究所、日本化薬㈱ 染料部東京研究所、大東京火災保険㈱ 損保セールス
創業　　昭和４８年　８月　保険代理店創業、経営コンサルティング
資本金　　１０００万円
事業活動　昭和５５年～　　：マイカーの交通安全対策
　　：地震防災への取組み(消防署、消防団)
　　平成　２年　３月　：中小企業診断士資格取得
　　平成１３年　９月　：ＩＴコーディネータ資格取得
　　平成２７年　９月　：ビーアイシー代表取締役を退任
　　事業承継　社長　岩間　健太郎(次男)
　　関係会社　いわま保険サービス代表(長男)
　　(有)ボディショップ　カントウ代表(長男)
　　平成２７年１０月　：コンサルティング部門設置(岩間文雄)

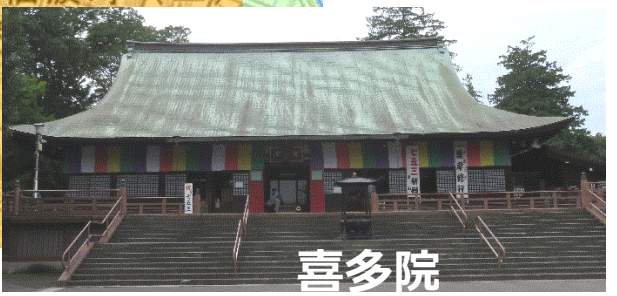
経営コンサルティングの主な活動
　　平成２年４月～同１８年８月　　：中山道中央商店会の街づくり支援
　　平成５年４月～同１０年３月　　：(財)埼玉県中小企業振興公社にて
　　リテールサポートセンター相談員
　　バーチャルモール立ち上げ支援
　　平成５年４月～平成７年３月　　：菖蒲町奉仕会(埼玉県知事賞)
　　平成９年４月～平成１０年３月　：川口銀座商店街振興組合
　　平成１０年４月～平成１１年３月：桶川市商工会婦人部
　　平成１２年４月～平成１３年３月：川口市商工会議所
　　平成１２年５月～平成１３年８月：桶川市第４次総合振興計画審議会会長
　　平成１５年４月～平成１６年４月：川越卸売団地、商工会議所
　　平成１９年１０月～平成２０年３月：桶川市３商店街の経営ビジョンづくり
　　平成２４年４月から　　：ものづくり補助金等の支援
　　平成２９年５月　　：ＢＣＰ「シンプル＆見える化」取組み
　　令和元年７月から　　：事業継続力強化計画対応の策定
　　令和５年１月から　　：地域振興ホームページ「大宮台地を走る伝鎌倉街道」の作成
　　神社研究

所属団体：　(一社)埼玉県中小企業診断協会
専門家登録(2023.12.22現在)：埼玉県産業労働部商業・サービス産業専門家登録

８．川越城、喜多院近辺の歴史散歩

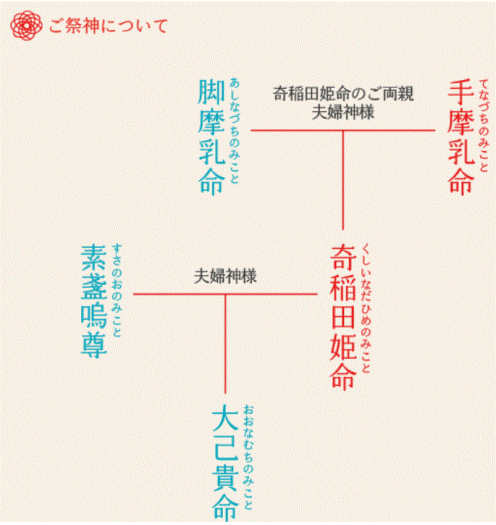
１コース　①川越氷川神社　②川越市立博物館　③三芳野神社　④浮島稲荷神社
２コース　⑤仙波日枝神社/白山権現　⑥出世神社　⑦川越熊野神社





①川越氷川神社（１コース）

川越氷川神社は今から約千五百年前、古墳時代の欽明天皇二年に創建されたと伝えられています。
室町時代の長禄元（1457）年、太田道真・道灌父子によって川越城が築城されて以来、城下の守護神・藩領の総鎮守として歴代城主により篤く崇敬されました。
江戸時代に入ってのちも歴代の川越藩主より社殿の造営や特別の計らいを受けました。現在の本殿には緻密な彫刻が施されており、県の重要文化財となっています。　また、昔より縁結びの神様としての信仰を集め、人々のご縁を取り持ってまいりましたのは、お祀りしている五柱の神様（ご祭神）にあります。



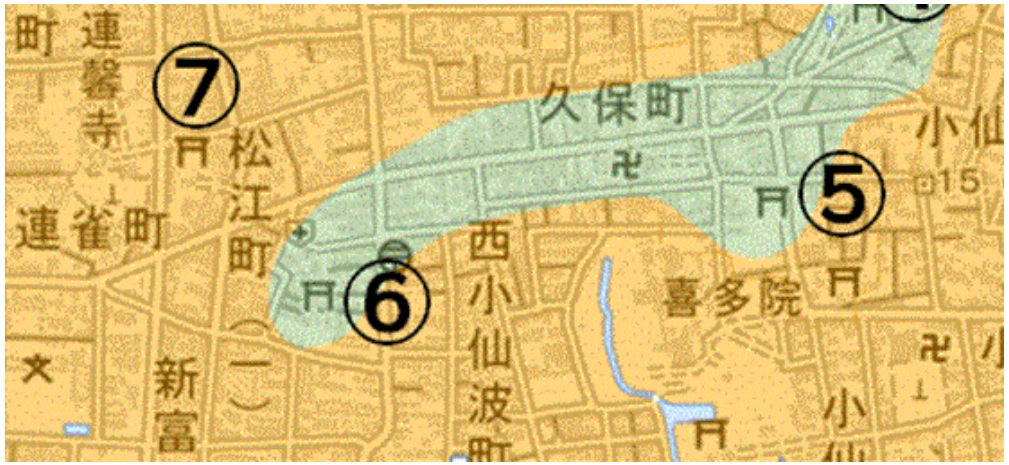
神社
八坂神社
柿本人麻呂神社
稲荷神社
日吉神社
加太粟島神社
菅原神社
松尾神社
馬頭観音
八幡神社
小御嶽神社
春日神社
子ノ権現社
疱瘡神社
厳島神社
水神社
嶋姫神社
雷電神社
三峯神社
蛇霊神社
御嶽神社
琴平神社

ホームページより転載

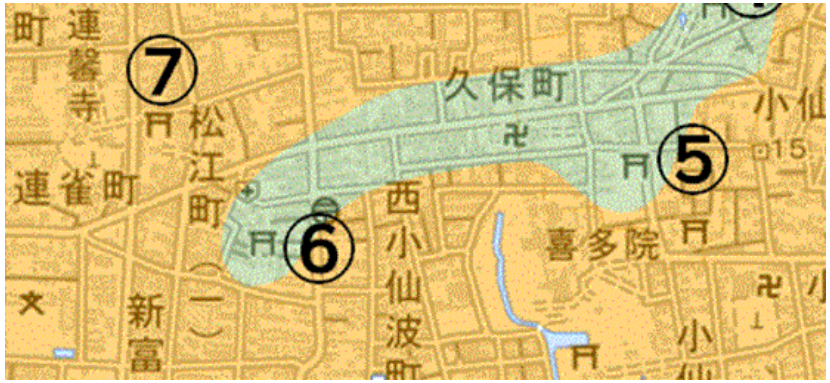
②博物館（１コース）

⑤仙波日枝神社(2コース)

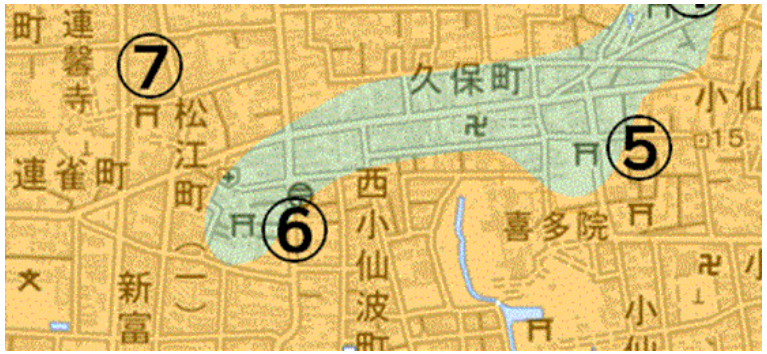
川越市
喜多院有料駐車場(200円/h)
に止めて、喜多院と⑤⑥⑦を
参拝して約1時間です。



⑥出世稲荷神社(2コース)

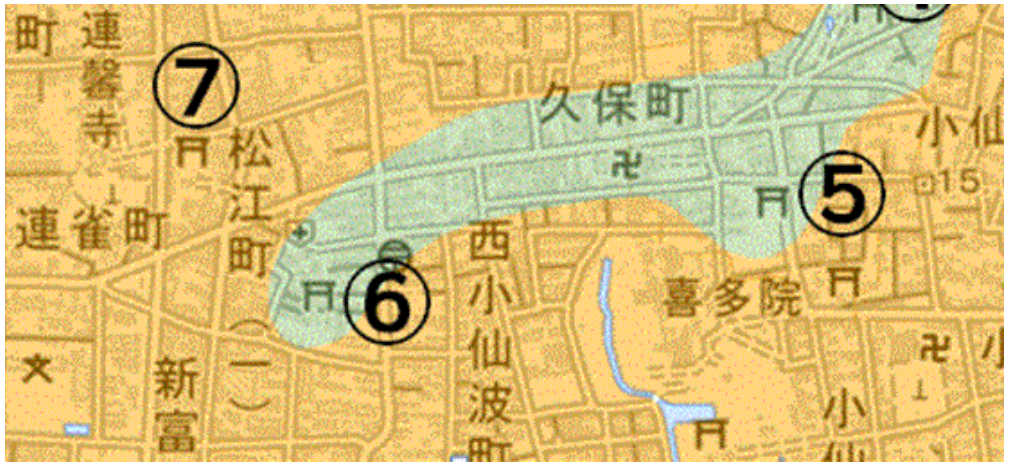


⑦川越熊野神社(2コース)

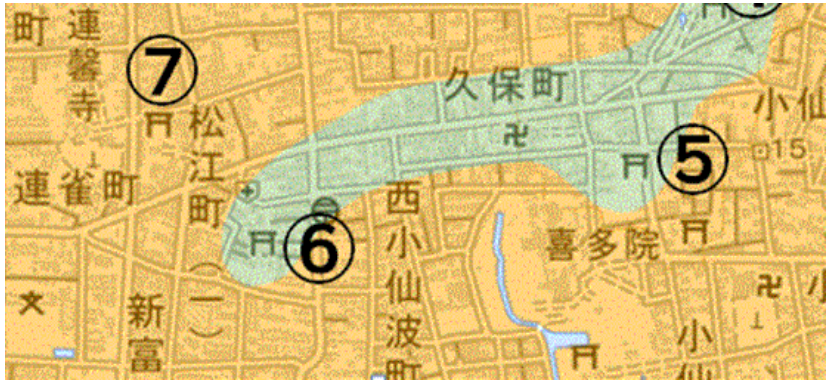
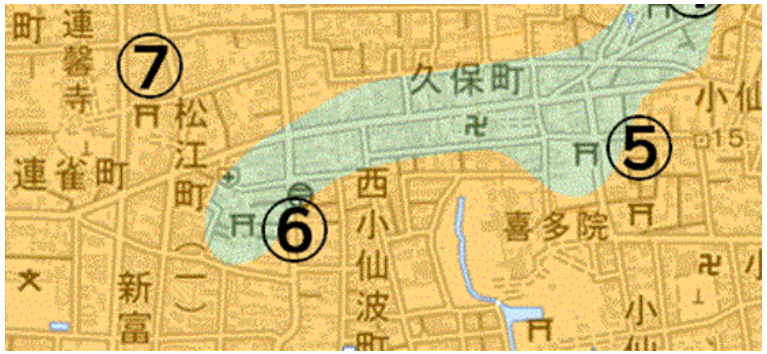


⑤仙波日枝神社(2コース)

川越市
喜多院有料駐車場(200円/h)
に止めて、喜多院と⑤⑥⑦を
参拝して約1時間です。



⑥出世稲荷神社(2コース)



⑦川越熊野神社(2コース)